

## 橋口幸夫先生のご退任に当たって

橋口幸夫教授が本年3月をもって、本学を退職されることになりました。昭和43年4月、本学商経科助手として就任され、爾来27年の長きにわたって商経科の学生の教育研究の指導に当たってこられました。先生の長年のご尽力とご功績に感謝し、『商経論叢』第44号を橋口幸夫教授記念号として贈ることに致しました。

先生は、昭和4年9月に出生、長じて早稲田大学政治経済学部に進学、昭和29年3月に同大学大学院経済学研究科を修了されました。その後、一時、民間企業に籍をおかれましたが、昭和43年4月より本学において教育研究者としての道を歩まれることとなり、経済政策論を主要科目として、その間のカリキュラム編成に応じて社会政策、日本経済論、産業概説、中小企業論、地域経済論、外書講読及び演習を担当されました。先生のこのような広範囲に亘る専門科目の担当能力は、民間企業在職中の証券業界のジャーナリストのご経験が基礎になっていると思われます。

先生のご研究は業績通覧して、二つの研究領域にまとめられます。一つは地域の産業社会に関する論功、学会発表及び多数の調査報告書であり、他は戦後日本主義の展開過程の研究であります。前者については、蓄積された研究成果を踏まえられ、地域の産業社会に積極的に還元され、多方面に亘る県、市及び産業界の各種審議会の学識経験者として参画されました。なかでも、鹿児島地方最低賃金審議会会長として永年寄与の功績により労働大臣表彰は、その証左でもあります。

学内では管理運営に図書館長、学生部長、学科主任として尽力されました。また教育に熱意をもってあたられ、学生の信頼感は多大なものがありました。このような有力教授のご退任は商経科にとって大きな痛手でもあります。願わくば今後とも相変わらず、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いする次第です。

さいごに、先生には御身ご自愛の上、今後ともますますご壮健で、豊かな人生を送られますよう、学会員一同、衷心からお祈り申し上げます。

鹿児島県立短期大学  
商経学会長 伊 伏 彰